



地域包括支援センター

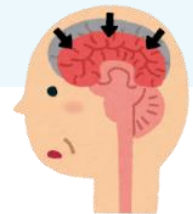
せいふ耳寄り情報

Vol.94

■認知症による一人歩きの心配について

認知症とは

認知症とは、さまざまな原因で脳に変化がおり、
これまでできていた生活に支障が生じている状態を言います。
「認知症」の原因となる病気にはいろいろあり、病気によって現れやすい症状
は異なります。また、認知症とよく似た症状をきたす体の病気や状態があるの
で、気になる時はぜひ早期に相談しましょう。



認知症の症状について

認知症の症状には、もの忘れや、判断力の低下など、脳の機能低下によって誰にでも生じ
る共通の症状「中核症状」と、中核症状に環境などさまざまな要因が加わって二次的に生
じる「認知症の行動・心理症状(BPSD)」があります。

中核症状（脳の細胞が壊れて直接起こる症状）

記憶障害

見当識障害（時間がわからないなど）

理解・判断力の低下

失行・失認など

実行機能障害（料理等の段取りが難しいなど）

言語障害(失語)など

本来の性格
心理状態

環境
人間関係

行動・心理症状 BPSD(性格、環境、人間関係などの要因により精神や行動に支障が起きる)

不安・焦燥感

幻覚・妄想

うつ状態

徘徊

暴力

その他

行動心理症状は必ずしも生じるものではありません。

帰宅困難の心配があるとき



● 行方不明になる前の工夫

玄関にセンサーやドアベルの設置することで
家族がご本人の外出に気づくことができます。

※介護保険で「徘徊感知機器」をレンタルすることもできます。(要介護2以上)

● 行方不明になった際に早く発見するための工夫

・位置情報探索機器の貸与

大阪市では、行方不明となる心配のある認知症の方を介護する家族等に対し、
位置情報探索機器を貸与しています。

(GPS 端末利用料 1320 円/月) 下記の「見守り相談室」まで

・GPS機能の活用

スマートフォンを持ち歩く方はアプリで位置確認ができます。

GPS 端末は日常的に持ち歩くものに取り付けておくことで、
ご家族の手元のスマホから居場所が確認できます。

キーホルダー型や靴につけるタイプ、インソールの裏につけるタイプもあります。



・見守りメール事前登録(認知症高齢者等の行方不明時の早期発見)

行方不明になった場合に協力者に対して発見協力依頼をメールや
FAX により配信し、早期発見につなげます。→「見守り相談室」まで

・緊急時の対応

行方不明時に備えて、顔写真を用意したり、
衣類(靴)や持ち物に名前や連絡先を記入しておくことで発見してもらいやすくなります。
万が一、行方不明になった場合は、すぐにお近くの交番。または警察署に届け出てください。
状況や特徴(服装、よく行く場所など)を詳しく伝えることが早期発見につながります。



・近所や地域の方との連携

行方不明になると家族だけでは対応が難しいので、
日頃から近所や地域関係者に状況を伝えておくことで、
複数の目で見守ることができ、発見される可能性が高まります。



認知症等の相談先

介護保険のサービスを利用することで、生活リズムが整ったり、徘徊が軽減することもあります。
医師や専門家に相談してみましょう。

● 鶴見区社会福祉協議会「見守り相談室」…06-6913-7070

● つるりっぷオレンジチーム(認知症初期集中支援チーム)…06-6913-9595

● 鶴見区西部地域包括支援センター…06-6913-7878